

過去の事業

行政からの支援を受けて実施したプロジェクト一覧



文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
「バレエ教育現場との連携による日本におけるバレエ教育システムに関する研究」
(平成20～24年度)

文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業による研究プロジェクト。
未来のバレエ文化を担う人材の育成と、バレエをめぐる社会的環境の整備に向け、
さらなる研究活動の発展を目指すため、多角的なアプローチで調査研究を進めました。



文部科学省 私立大学等経常費補助金特別補助(教育・学習方法等改善支援)
「日本のバレエ教育に適した教授法研究」(平成19～21年度)

文部科学省 私立大学等経常費補助金特別補助による研究プロジェクト。
日本のバレエ文化の特色・ニーズを調査したうえで、日本に適した独自の教育方法を
整備提案することを目的として本事業を実施いたしました。

◎過去に行った事業の報告書やリーフレットは、昭和音楽大学バレエ研究所ウェブサイトダウンロードが可能です。

昭和音楽大学 バレエ研究所

〒215-0004 神奈川県川崎市麻生区万福寺1-16-6

昭和音楽大学 北校舎内

Tel:044-953-9880 Fax:044-953-9901

(受付時間 10:00～18:00 土日祝除く)

【E-mail】ballet@tosei-showa-music.ac.jp

【URL】<http://www.tosei-showa-music.ac.jp/balletresearch/>

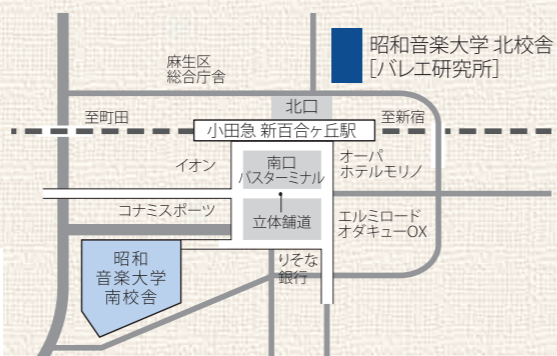
【公式Twitterアカウント】@ShowaBRC

【バレエ情報総合データベース】

<http://ballet.tosei-showa-music.ac.jp/>



バレエ研究所ウェブサイト▶



昭和音楽大学

昭和音楽大学、昭和音楽大学院、昭和音楽大学短期大学部は、前身である東京声専音楽学校の創立(1940年)以来、常に実践を重視した教育を行ってきました。

作曲、器楽、声楽のほか、ミュージカル、バレエ、ポピュラー音楽、ジャズ、アートマネジメント、舞台スタッフ、音楽療法など、国内においていち早く専門性の高い多様なコースを設置し、また、キャンパスにはシアトロ・ジーリオ・ショウワ(劇場)など本格的で充実した施設を備え、

舞台芸術の未来を担う人材を育成しています。



シアトロ・ジーリオ・ショウワ

ShoWa
ACADEMIA
MUSICAE
*Ballet
Research
Center*

文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 (平成27～31年度)

バレエ情報センター機能の構築

ご挨拶

バレエ研究所は国内唯一の大学附属バレエ研究機関として2006年に設立されました。日本におけるバレエ文化や国内外のバレエ教育に関する研究を目的とし、開所以来さまざまな活動を精力的に行っております。

我が国においてはバレエ研究を進める際、関連資料や基礎的データの不足が問題点として指摘されています。また日本では現在、幅広い学習者に向けて教育が行われているものの、指導者資格制度は確立されておらず、学習者のニーズにあった教育が常に行われているとは言えません。

バレエ研究所はこうした日本におけるバレエ環境を調査し、研究を通じてその改善につとめています。研究成果をバレエに携わる方々に積極的に提供し、日本におけるバレエの発展を側面から支えています。

昭和音楽大学バレエ研究所

プロジェクトメンバー

(2018年3月時点) [50音順]

プロジェクト統括者

小山 久美 昭和音楽大学バレエ研究所 所長、昭和音楽大学短期大学部 教授、スターダンサーズ・バレエ団総監督

プロジェクト研究員

石田 麻子	昭和音楽大学オペラ研究所 所長、学長特命補佐、昭和音楽大学 教授
岩部 純子	昭和音楽大学 特任専任講師
海野 敏	東洋大学 教授
大原 永子	新国立劇場 舞踊芸術監督
尾崎 瑠衣	昭和音楽大学・同短期大学部 非常勤講師
小尻 健太	昭和音楽大学・同短期大学部 非常勤講師
高野 明彦	国立情報学研究所 教授、東京大学大学院 教授
高橋 典夫	一般社団法人日本バレエ団連盟 理事長
松澤 慶信	日本女子体育大学 教授
溝上 智恵子	筑波大学大学院 教授

プロジェクト協力

国立情報学研究所、特定非営利活動法人連想出版、株式会社HUMIコンサルティング
公益社団法人日本バレエ協会、チャコット株式会社

評価体制

本プロジェクトに対する評価体制は、昭和音楽大学が設置する点検評価委員会による自己点検・自己評価と、外部評価委員会による外部評価から構成されています。前者については、点検評価委員会における検討を経て、本プロジェクトの活動内容、自己評価、および改善・向上策が、「自己点検・自己評価報告書」が年度ごとに公表されます。詳しくは本学ウェブサイトをご覧ください。

<http://www.tosei-showa-music.ac.jp/guide/information/check.html>

また、外部評価は数名の学外専門家によって、プロジェクトの中間年と最終年に実施されます。外部評価内容につきましては、昭和音楽大学バレエ研究所ウェブサイトにて公開を予定しております。

研究目的

日本においてバレエ公演は民間が行うことが多く、資金や人材不足により資料の整理・保存まで手が回らないことがほとんどです。

またバレエに関する拠点のアーカイブは不在であり、研究に必要な基礎的データも不足している状況にあります。本研究プロジェクトの目的はバレエに関わる資料、情報を一元的に保存・管理・公開し、昭和音楽大学バレエ研究所内に、国内でも有数のバレエ資料や情報の拠点を形成することです。

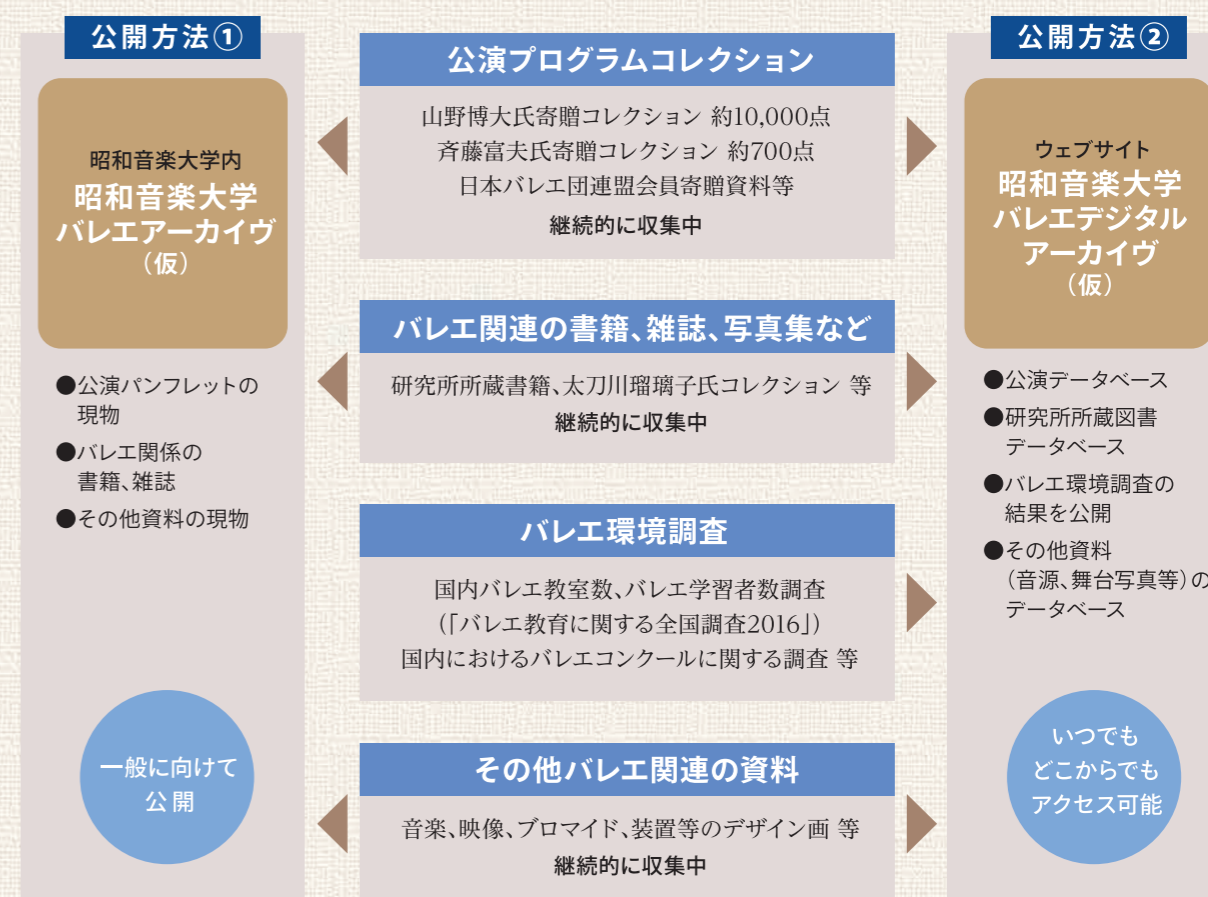
アーカイブ構築やデータ収集は、単に過去や現状の把握を目的とするではありません。

アーカイブを通じて日本バレエの来し方を振り返ることは、未来へ新たな一歩を踏み出す際の手がかりを得ることにつながります。

またバレエを取りまく環境の調査を行うことで、日本特有のバレエ文化を客観的に見直し、改善を図ることができます。バレエ研究所は本研究プロジェクトを通じて、日本有数のバレエ情報拠点を設立し、日本バレエ発展の一助となることを目指します。

研究概要

バレエ関連資料等を一元的に整理・管理・公開することで、国内で有数のバレエ資料・情報拠点を形成することを目的としています。



バレエ情報・資料整理グループ

本グループはバレエに関する書籍、公演プログラム、視聴覚資料、その他資料を収集・整理しています。

バレエ研究所が所蔵する舞踊評論家・山野博大氏コレクションは1940年代から今日までの**公演パンフレット約10,000点**からなり、日本におけるバレエ上演史そのものと言えます。

2017年には新たにスターダンサーズ・バレエ団創設者・太刀川瑠璃子氏のバレエ資料コレクションを受け入れました。

これらは日本バレエ史を研究する際に欠かせない重要な資料として、公開に向けて整理・研究を進めています。

またバレエ研究所は**和書・洋書あわせて約1,600点、視聴覚資料約500点**のバレエ関係資料を所蔵しています。

バレエ関係の書籍・視聴覚資料としては国内でも有数の所蔵数です。

所蔵資料の拡充をさらに続け、整理・研究したうえで、一般公開することを予定しています。



■ 寄贈元 (一部)

- ・山野博大氏 (舞踊評論家)
- ・斉藤富夫氏 (新聞記者)
- ・太刀川瑠璃子氏 (バレエ団創設者)
- ・東京文化会館
- ・新国立劇場
- ・全日本舞踊連合
- ・日本文化財団
- ・個人寄贈者

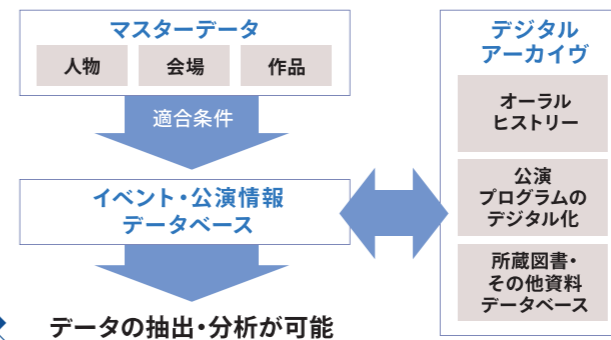
デジタルアーカイヴグループ

本グループは、バレエ研究所が所蔵する公演プログラムやバレエ関連資料をもとに、バレエデジタルアーカイヴを構築することを目指しています。国内で上演されたバレエ公演情報を蓄積するため、これまでバレエ研究所で寄贈を受けた公演プログラムや、バレエ研究所が所蔵している公演プログラム等をデジタルアーカイヴ化することで、バレエ公演情報の統合管理を可能にし、公演情報だけでなくバレエ研究所所蔵資料データベースやオーラルヒストリー (口述記録) をはじめとする、他のバレエ関連資料とも紐づけられたバレエアーカイヴシステムを構築する予定です。

▶アーカイヴ検索画面例 (※作成中/実際とは異なることがあります)



バレエデジタルアーカイヴ



研究成果発表

企画展『日本におけるバランシン』

2017年8月5日 (土)、8月6日 (日): 新国立劇場オペラパレス ホワイエ

去る2017年8月5日 (土)、6日 (日)、新国立劇場オペラパレスにて企画展「日本におけるバランシン」を開催しました。ジョージ・バランシンは20世紀でもっとも重要な振付家のひとりです。その作品は日本を含め世界中のバレエ団で、現在もくりかえし上演され続けています。本企画展は日本におけるバランシン作品の上演史に注目し、日本初演から現代に至るまでの道のりを、さまざまな資料を通じて振り返りました。上演史年表のパネル、デジタル公演史アーカイヴの展示、ダンサーがバランシン作品について語るオーラルヒストリーの上映、ニューヨーク・シティ・バレエ団来日時の公演プログラム現物展示など、多様な切り口で日本におけるバランシン作品の上演史をご紹介します。この展示を通じて本研究の成果の一部を、皆さまにご覧いただくことができました。会場は一般の方々や愛好家、研究者等にぎわい、2日間でのべ約1,000人の方にご来場いただきました。展示後も「面白い内容だった」、「同様の企画展をまた開催してほしい」など、好意的なご意見が多く寄せられています。



順位	演目名	上演回数	初演年	上演回数
1	胡桃夹子	153	1958	153
2	The Nutcracker	79	1958	79
3	胡桃夹子	75	1958	75
4	胡桃夹子	62	1958	62
5	胡桃夹子	51	1958	51
6	胡桃夹子	49	1958	49
7	胡桃夹子	43	1958	43
8	胡桃夹子	38	1958	38
9	胡桃夹子	35	1958	35
10	胡桃夹子	33	1958	33
11	胡桃夹子	30	1958	30
12	胡桃夹子	29	1958	29
13	胡桃夹子	28	1958	28
14	胡桃夹子	27	1958	27
15	胡桃夹子	26	1958	26
16	胡桃夹子	25	1958	25
17	胡桃夹子	24	1958	24
18	胡桃夹子	23	1958	23
19	胡桃夹子	22	1958	22
20	胡桃夹子	21	1958	21
21	胡桃夹子	20	1958	20
22	胡桃夹子	19	1958	19
23	胡桃夹子	18	1958	18
24	胡桃夹子	17	1958	17
25	胡桃夹子	16	1958	16
26	胡桃夹子	15	1958	15
27	胡桃夹子	14	1958	14
28	胡桃夹子	13	1958	13
29	胡桃夹子	12	1958	12
30	胡桃夹子	11	1958	11
31	胡桃夹子	10	1958	10
32	胡桃夹子	9	1958	9
33	胡桃夹子	8	1958	8
34	胡桃夹子	7	1958	7
35	胡桃夹子	6	1958	6
36	胡桃夹子	5	1958	5
37	胡桃夹子	4	1958	4
38	胡桃夹子	3	1958	3
39	胡桃夹子	2	1958	2
40	胡桃夹子	1	1958	1

展示内容

- 日本におけるジョージ・バランシン作品上演史パネル展示
- 昭和音楽大学バレエ研究所『バレエデジタルアーカイヴ (仮)』一部公開
- ニューヨーク・シティ・バレエ団1958年初来日公演写真パネル (昭和音楽大学図書館所蔵「小原・堀田写真コレクション」より)
- ベン・ヒューズ氏 (ニューヨーク・シティ・バレエ団元プリンシパル) と小山久美所長によるオーラルヒストリー映像 (約10分)
- ニューヨーク・シティ・バレエ団来日歴代プログラム実物展示



今後の予定

本プロジェクトでは「昭和音楽大学バレエアーカイヴ (仮)」を昭和音楽大学バレエ研究所内に構築し、収集・整理した資料や公演プログラムを一般公開する予定です。日本における有数のバレエ資料拠点として、研究者や関係者、また愛好家や一般の方々にもご利用いただけるアーカイヴを目指します。

また、あわせて「昭和音楽大学バレエデジタルアーカイヴ (仮)」のオンライン公開も予定しています。デジタルアーカイヴを公開することで、いつでも、どこでも、バレエ研究所の研究成果や日本バレエの公演情報等にアクセスしていただくことが可能となります。最先端の情報技術とバレエ情報が出会った成果をご覧いただけるよう、日々、研究を続けています。

バレエ情報・資料整理グループ
デジタルアーカイヴグループ

バレエ環境調査グループ

国内外におけるバレエ環境の情報収集・調査を行い、その成果をウェブサイトや刊行物を通じて公開しています。本研究を通じて日本におけるバレエ教室数、バレエ学習者数、バレエコンクール数など、バレエ研究に必要な情報が把握できます。こうしたデータは日本におけるバレエ環境の包括的な理解に不可欠であるほか、振興施策にも必要です。また社会的ニーズも高く、テレビや新聞をはじめとしたメディアでもたびたび使用されています。すでに『バレエ教育に関する全国調査2016』と『全国バレエコンクール調査2016』を実施いたしました。

調査報告① バレエ教育に関する全国調査2016

国内のバレエ環境の把握を目的として、バレエ環境についての大規模なアンケート調査を実施いたしました。バレエ研究所では、2011年9月に日本ではじめて全国のバレエ教室を対象とした全数調査を実施し、その調査結果は多くの反響を呼びました。はじめて全国調査を行ってから5年が経過し、バレエ教育市場はどのように変化したのか、より正確なバレエ学習者数と現在の日本におけるバレエ教育環境の実態を数値化した最新のデータを得ることを目指して調査を行いました。

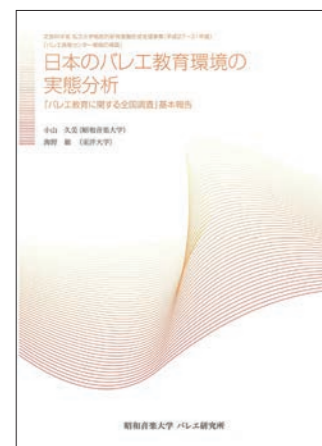
【調査期間】 2016年9月5日～9月30日

【調査対象】 バレエ教育を行っている組織・団体

【調査方法】 郵送法による調査

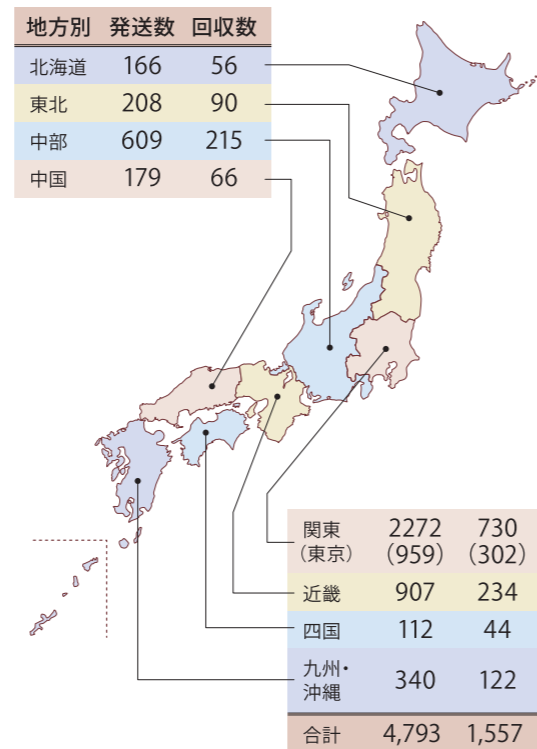
【調査内容】 バレエ教室の経営主体及び教育内容について

全国のバレエ教育を行っている組織・団体の情報を可能な限り網羅的に収集し、全国4,793件のバレエ教育機関に調査票を送付し、回収率32.5%、1,557件の回答を得ることができました。回答票のデータ集計と基本的な統計分析を行った結果、日本のバレエ教育市場規模は**この5年間で約1割縮小、バレエ学習者総数は35.8万人であることが明らかとなりました。**バレエ教育内容については、プロ養成のための専門的なクラスを実施している教室が増加、**バレエコンクールへの参加も増加**していることなどがわかりました。今後も、さらにさまざまな角度から調査結果の分析を進めていく予定です。



「バレエ教育に関する全国調査2016」の調査内容をまとめたリーフレットを作成しました。このリーフレットは、本調査にご協力頂いた皆様をはじめバレエ関係者に広く配布するとともに、バレエ研究所ウェブサイトでも公開しております。ダウンロードをしてご覧頂くことが可能です。

■ 地方別の発送数と回収数



■ 回収結果

	2011年	2016年
発送数	4,630件	4,793件
返送数	1,484件	1,557件
回収率	32.1%	32.5%
バレエを教えている教室数	1,335件	1,503件
生徒数の有効回答数	1,304件	893件

■ 推定結果

推定数	2011年	2016年
全国教室数	4,530件	4,640件
全国学習者数(人口比)	40.0万人(0.31%)	35.8万人(0.28%)
全国男子生徒数(学習者比)	5.5千人(1.4%)	7.9千人(2.2%)
全国教師数	1.9万人	1.5万人

▶ 調査結果(一部)



調査報告② 全国バレエコンクール調査2016

日本ではじめて、全国のバレエコンクールを対象とした全数調査である「全国バレエコンクール調査2016」を実施いたしました。この調査によって、コンクール数、応募者数、審査内容など国内コンクールの実態がデータを通じて明らかになりました。当調査では予備調査として、2015年に全国で開催されたバレエコンクールの情報収集・精査をしたのち、2016年に本調査を行いました。

【調査期間】 2016年11月28日～12月31日

【調査対象】 2016年に開催された国内バレエコンクール

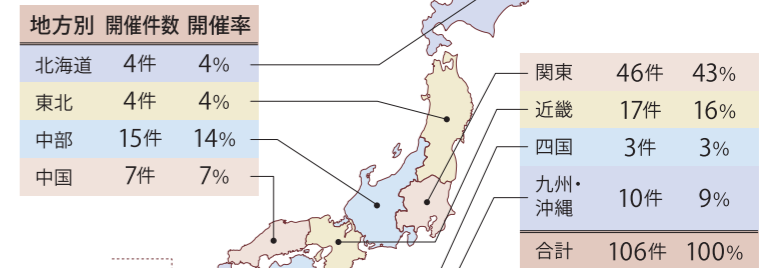
【対象主催団体】 61件

【対象バレエコンクール】 106件

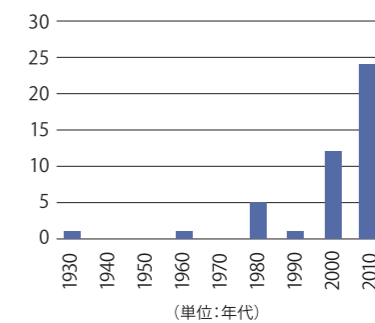
【調査方法】 郵送法による調査

バレエコンクール事務局を対象にアンケートを送付し、回答率は42%でした。回答があったバレエコンクールのうち、**80%以上が2000年以降に創立している**ことがわかりました(図1参照)。また1回のコンクールに対して平均応募者数は282名であり、全国では**年間のべ約2.9万人**が参加していることが明らかとなりました。審査回数については、半数以上が審査1回のコンクールで、多いもので審査3回でした。審査内容は古典作品のヴァリエーション審査が多く、またコンテンポラリー審査も3割を占めていました。受賞者への褒賞は賞品が最も多く、次点が賞金、また半数近くのコンクールで海外バレエスクールのスカラシップや、海外バレエコンクールの出場権が贈られていることが明らかになりました。出場料について、コンクールパンフレットより収集できた33件の事例から分析したところ、平均出場料は21,745円でした。詳細な調査結果は、今後刊行予定の報告書に掲載するほか、ウェブサイトで公開予定です。

■ 表1:開催地



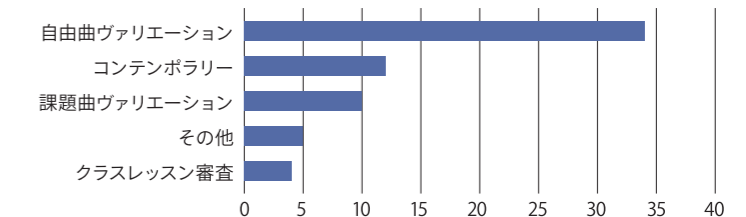
■ 図1:創立年



■ 表2:応募者数

	n	割合
100名未満	4	9.1%
100名～300名未満	26	59.1%
300名以上	14	31.8%
全体	44	100.0%
平均人数	282.18人	

■ 図2:審査内容



■ 図3:受賞者への褒賞

